

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 吉田 尋子

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>美馬市では、平成29年3月末に5小学校が合併再編したことから、5廃校施設が生じました。廃校前の4年間をかけて、跡地利用検討委員会ならびに各小学校跡地利用協議会において検討を重ねられました。地域活動拠点としての廃校施設利活用のため地域運営組織(まちづくり協議会)の組織化し、有効に廃校施設活用されていました。</p> <p>そして、企業団体の利活用として、2つの斬新な活用がありました。</p> <p>①「大人の学校 悠遊大学」 人生のベテラン世代が仕事引退後にさまざまな文化活動や健康作り活動に取り組み、生きがいを感じ介護不要の老後を作る。税金だけに頼らない地域交流拠点の運営。</p> <p>②徳島大学発ベンチャー「グリラス」 コオロギを養殖、食料として新しいタンパク源とする。無印良品コオロギせんべいは売り切れるほどの人気商品に。地域雇用もあり、市との災害時応援協定を結び、地域連携も。</p> <p>南丹市においても、小学校跡施設が地域振興に帰する施設としてどのように生き残っていくか課題が多い状況です。学びを持ち</p>	<p>高知市において、高知市こどもまちづくり基金助成事業「こうちこどもファンド」について学びました。</p> <p>こうちこどもファンドは、「子どもたちのアイデアで住んでいる地域等をより住みよいまちにするための活動」</p> <p>「子どもたちの活動によって誰かが喜んでくれる活動」を応援する助成制度です。</p> <p>つまり、子どもたちによる「まちづくり活動」を応援する取り組みです。子どもたちによる「まちづくり提案」を「子ども審査員」が審査し、助成を決定するという点も画期的で、正に子どもが主体となった取り組みです。</p> <p>この事業には次の3つの効果もあります。</p> <p>①子どもたちを中心としたまちづくり活動が地域の人々を巻き込み、地域全体の活性化につながる。</p> <p>②将来の高知市のまちづくりを担う人材が育成される。</p> <p>③子どもに優しいまち高知市が実現できる。</p> <p>そして、この事業が企業や個人からの寄付金で賄われ、市の一般財源はつぎ込まれていない、ということには驚きました。</p> <p>子どもたちの具体的な活動は、次の通りです。</p> <p>①地域との関わり×防災</p>

	<p>帰り、今後に活かしてまいります。</p>	<p>○地域との関わりを重要視した防災イベントの実施 国際中学校</p> <p>②キラピカ大津クリーン大作戦 ～今、私たちにできること～</p> <p>○学校周辺及び地域の児童公園の清掃 ○ポイ捨て防止の啓発ポスター作製</p> <p>③未来をかえ隊 鏡川清掃大作戦！～広げよう川・生き物を守るその気持ち～</p> <p>○川と生き物を守る気持ちを広げること、ゴミに対する意識を持ってもらうための鏡川の清掃活動</p> <p>④ 久重 natural チーム 里山保全で久重を発信！ ～SDGsで持続可能なまちづくり～</p> <p>○地域の有用植物を使った保存食づくり ○川の生き物の保全を通じた里山保全学習</p> <p>⑤ はちきんパワーで女性が暮らしやすいまちづくり！</p> <p>○女性にとって住みやすいまちにすることを目標に、女性の月経について理解を深めるための映像作成</p> <p>10年を経過し、ますます発展するこの取り組みに感動すると共に、南丹市のまちづくりに何か少しでも生かすことができれば、子どもたちがいつまでも住み続けたい南丹市が築けるのではないかと思います。</p>
--	-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 平田 聖治

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
視察を終えて	<p>◆美馬市の概要 美馬市は、平成17年3月1日に旧美馬郡の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできたまち。令和5年10月1日現在の人口は、26,902人、世帯数12,521戸です。</p> <p>●<廃校跡地利活用の経緯> ■美馬地区の5校が廃校となり、美馬小学校になる。(平成29年3月末) ■平成25年度から平成28年度の4年間をかけて統合後の廃校跡地利用について検討 ■平成28年度に美馬地区廃校施設利用検討委員会で廃校施設利活用方針を決定 ・地域活動拠点として、地域運営組織(まちづくり協議会)の組織化 ・地域コミュニティ活動拠点施設にする ・「地域活動センター」として、条例整備をして組織の育成と施設整備を行う。また、民間活力を取り入れるため、企業・団体の誘致を進め、地域の活力増進と施設の有効活用を図る。 ■平成29年度に利活用の一環として企業団体の貸し付けを検討 ・貸付方法・・・使用貸借契約 ・貸付使用料・・・無償</p>	<p>◆高知市こどもまちづくり基金助成事業 ●「こうちこどもファンド」 ・こうちこどもファンドとは、「子どもたちのアイデアで住んでいる地域等をより魅力的に住みよいまちにするための活動」「子どもたちの活動によって誰かが喜んでくれる活動」を応援する助成制度です。</p> <p>■<応募条件> ① 18歳以下のメンバーが3人以上いること ② ①のメンバーがひとつの家族(兄弟姉妹)だけでないこと ③ サポートしてくれる大人が2人以上いること</p> <p>■<助成金額> ・1事業あたり20万円まで</p> <p>●<制度の特徴> ・提案・審査・活動の全てにおいて「子どもが主体」となる、全国的にも珍しい制度</p> <p>●<こうちこどもファンドがめざすもの> ① 将来のまちづくりを支える人材育成 ② 子どもを中心としたまちづくりの活性化 ③ 子どもに優しいまち(高知市)の実現</p> <p>●<まちづくり活動の実績> ・子どもたちの活動内容は、美化・防災・食・交流などさまざまです。子どもたちのアイデ</p>

- ・光熱水費・・・定額 8,000 円
- ・貸付期間・・・5 年間（更新可）
- ・廃校施設の企業団体等の誘致
- 株式会社 グリラス
- ・幼稚園棟、小学校棟を使用
- ・コオロギ養殖による食品製造
- 廃校施設の活用における今後の課題
- ・施設の老朽化に伴う、修繕費の増加
- ・光熱水費等の増加に伴う企業団体の負担額の見直し
- その他
- ・大人の学校「悠遊大學」の概要説明

<所感>

本市における廃校施設の跡地利用についても、地域コミュニティ活動の拠点施設として存続させると共に、民間活力の導入等によって施設の維持管理を行うことが望ましいと考えます。結局、維持管理の経費が一番の問題で、果たしてそれぞれの地域において、それができるかどうか。今後、地元との協議・調整が必要であり、最終的には、やはり行政主導で考えるべきだと思います。

アから生まれ、子どもたちが主体となったまちづくり活動をしています。

■<こども審査員>

- ・こどもファンドに応募した子どもたちの活動に対して、助成するかどうかを審査する役割を担うのが「こども審査員」です。
- ・子どもの視点で申請内容を審査する
- ・大人の審査員と協議し、採択を行う

■<大人の審査員>

- ・子ども審査員の審査をサポートする
- ・子ども審査員と協議し、採択を行う

<所感>

高知市は、平成 24 年～令和 3 年度までの 10 年間の成果と課題を検証するため、令和 4 年 5 月～6 月の期間に実施したアンケート調査によると、活動した子どもたちは「まちのために役に立ちたい」「高知に住んでいたい」「ニュースに関心を持つようになった」等、自分の住む地域への愛着心が形成されているとともに、自分の住む地域や社会への関心や問題意識が高くなっている。また、こども審査員として「自発的に行動ができるようになった」「問題意識を持って行動・発言できるようになった」という自発性・積極性が養われていると結果としてまとめられています。

「こうちこどもファンド」は素晴らしい事業であり、その取り組み内容については、評価できると思います。本市においても、積極的に子どもたちのアイデアを生かし、子どもを主体としたまちづくりにも取り組むことが必要と考えます。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 樋口 浩之

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>1日目に訪れた徳島県美馬市の面積は367.1 km² に対して人口28094人と、近隣で言うと綾部市(347.10km² 30568人)と類似する自治体である。南丹市と比較すると改めて本市における人口密度の低さ(616.4 km² 30187人、2023/10/1 現在)を感じる。</p> <p>美馬市には合併以降5つの廃校利用施設があり、いずれも地元有志によって組織された地域運営組織(南丹市における振興会)により地域活動センターとして稼働している。ここまでは南丹市と類似する廃校活用の形態であるが、注目すべき活用例は企業による2つの活用事例である。</p> <p>中でも、徳島大学発のベンチャー企業、株式会社グリラスは昆虫食を研究するフードテック企業であり、世界トップクラスのコオロギ研究をベースに、農業、食品、健康、飼料と4つの事業を展開する企業であり、美馬市にある2つの廃校施設をコオロギの養殖場、研究施設として活用している。</p> <p>この企業が扱う昆虫食は人口爆発により枯渇が予測される世界の食料事情や家畜によるメタンガス温暖化などの問題に対するソリューションとして世界的に注目されるものであり、今後の成長が期待できる企業で</p>	<p>2日目の高知市では「こうちこどもファンド」と呼ばれる高知市こどもまちづくり基金助成事業について説明を受けた。この事業の特徴は、こども達が事業を提案をし、こども達が審査にも参加するというものである。また特筆すべき点はこの事業予算がほぼ個人と企業による寄付で賄われているという点である。</p> <p>こども達に自分たちの未来を真剣に考える機会を与えることで、大人達にも、まちづくりへの関心などの波及効果が生まれる。こどもが変われば大人が変わるという素晴らしい実例であると感じた。</p> <p>この事業は学校とは切り離し、こども達とそれをサポートする大人とで進められていくのであるが、サポートの役割は大変大きく、現在は1人の方に事業設計等のアドバイス役を委ねられているということであった。今後の後進づくりが課題であろう。大人の事業計画と遜色ないような素晴らしい事業計画の事例を教えて頂いたが、一つ気になる点をあげるとすれば、この事業は、一部少数のこども達のみが関わっているように感じた点である。たとえ実現性は低くとも、こども達の自由な発想で描かれた夢も見てみたいと感じた。</p>

	<p>ある。このようなことから、美馬市における事例は廃校活用にとどまらず、地域にとって雇用創出や税収なども期待できるものであり、当市においても、このような今後の成長を期待できる企業による活用を押し進めることで、廃校利用だけに止まらない波及効果を生み出せるものであることは一考に値するものであると感じた。</p>	
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 小林 毅

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>経過、事情も違うのではあるが、美馬市のような市直営での休・廃校施設の跡地活用、村落支援員の配置、跡地利用協議会による地域住民の参画は注目される手法である。</p> <p>財政事情は大事な要素だが、売却などで地域の将来を丸ごと営利企業などにゆだね、立ち戻りができなくなるようなことは一考すべきである。</p> <p>小学校は、どこでも百有余年にわたって、地域を支えてきたところである。呼び込み型は地域の将来を他者にあずけてしまうことになる。南丹市には、内発型で地域活性化の方向を探求・具現化していくことを、今後の方針の柱に据えることが求められている。</p>	<p>「子どもの権利条約」では、生きる権利、育つ権利、守られる権利とあわせ「参加する権利」を子どもたちが持つ基本的なものとしている。高知市のとりくみは「参加する見地」の提供と実践の見地から注目される。</p> <p>ただ、とりくみでは、学校の先生の関与が大きな事業推進の支えとなっていることが報告されていた。「教師の働き方改革」が言われ、学校と教職員の待遇改善が急務となっている中、教職員の労働過重になっていないかどうかの検証も大事であろう。これまで一件も応募がない学校もあることも報告されていたが、分析も聞きたいところであった。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 若井 睦巳

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>美馬市は、徳島県の西部に位置し、人口約26,900人の歴史情緒あふれるまちです。</p> <p>平成25年度から平成28年度の4年間をかけて統合後の廃校跡地利用について検討してきている。</p> <p>地域活動拠点として廃校施設の利活用するため、地元有志を中心に地域を盛り上げるための主体的な運営団体(まちづくり協議会)を結成することにした。運営団体に対しては、施設を無償で貸借し、利活用をすすめている。校舎の改修等に文部科学省からの補助を受けており、耐用年数面からまだ残があり、有償での貸し出しとすると補助金の返還が必要となる。何も使わずに残すのはもったいないというのが基本方針。</p> <p>平成29年度に入って利活用の一環として企業団体の貸付を検討し、平成31年からアウトフィット有限会社に、令和2年10月から株式会社グリラスに貸し付けている。</p> <p>*廃校跡地を残して使うことを前提に利活用のための事業を展開しており、本市としてもその姿勢は見習うべきものがあるのではないかと感じた。</p>	<p>高知市は、四国南部のほぼ中央に位置し、人口約32万人の都市です。</p> <p>平成15年4月に、高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例が制定され、高知市と住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうことを目的に、まちづくり活動を行う団体に対し助成することにした。(公益信託高知市まちづくりファンド)</p> <p>平成23年にこのファンドの今後の在り方に関する検討委員会で検証した結果、助成してきた活動の3割程度が子ども関連であったことから、こうちこどもファンドが平成24年4月に設立された。</p> <p>このファンドの成果として、子どもを中心としたまちづくりの活性化、将来の高知市のまちづくりを担う人材の育成、そして子どもにやさしいまち高知市の実現の3点が挙げられる。</p> <p>*この事業は、管理職1名と担当者2名で実施されている。担当者に負荷は大きくないですかと尋ねたところ、「確かに負荷は大きいですが、この仕事がしたくて職員になった。やりがいを感じている」との回答だった。</p> <p>とても羨ましく、深く印象に残った。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 谷尻 昌史

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>美馬市は平成17年3月に脇町・美馬町・穴吹町・木屋平村が合併してできた徳島県の西部に位置する、人口約2万6千人の自然豊かなまち。脇町南町のうだつの町並み(重要伝統的建造物群保存地区)には多くの観光客が訪れる。</p> <p>平成29年の美馬地区5小学校統廃合後、積極的な休・廃校施設の利活用が進められている。多様な利活用の背景には、平成25年度から28年の4年間をかけて統合後の跡地利用に関して、住民アンケート調査や跡地利用協議会の設立、地元説明会などで合意形成が図られてきた経緯がある。</p> <p>現在、旧重清西小は、市内の教育関連団体が高齢者を対象にした英会話教室やスポーツジムなどの「悠遊大学」を運営する。また、旧柴坂小・旧切久保小では、徳島大学発のベンチャー企業「株式会社グリラス」が食用コオロギの生産拠点や研究所を運営する。各施設は指定管理ではなく、市が企業団体と使用貸借契約を結び、定額の光熱費を徴収する。施設老朽化に伴う修繕費の増加、負担額の見直しなどの課題も残るが、積極的な企業・団体誘致策や地域の活力増進などについて多くの学びがあった。</p>	<p>高知市は四国南部のほぼ中央に位置する、人口約32万人の中核市。</p> <p>まちづくり一緒にやろうや条例(愛称)が平成15年4月に策定され、市民と行政が共に考え、パートナーシップ(協働)によるまちづくりが進められてきた。</p> <p>今回、研修した「こうちこどもファンド」は、そうした背景のもと平成15年4月に四国銀行への公益信託によりまちづくりファンドが設立され、助成した活動の約3割が子ども関連であったことや、地域の住民全体への波及効果を確認し、検討委員会を経て平成24年4月に設立された。</p> <p>子どもたちのアイデアで住んでいる地域等をより魅力的で住みよいまちにするための活動や、子どもたちの活動によって誰かが喜んでくれる活動を応援する助成制度で1事業あたり20万円まで助成される。</p> <p>ファンドの原資は市が平成24年に積立てた2000万円と企業や個人の寄付により、延べ90件・1380万円が助成されている。</p> <p>提案・審査・活動において、子どもが主体となる全国の自治体に先駆けた取り組みで、地域の課題解決や地域の一体感をつくりだす素晴らしい事業であると感じた。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 仲村 学

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	徳島県 美馬市	高知県 高知市
視察日	令和5年10月25日(水)	令和5年10月26日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・休・廃校施設利活用について	・市民協働について(こうちこどもファンド)
行政視察を終えて	<p>徳島県美馬市では、「休・廃校施設利用について」の研修をおこないました。</p> <p>全国的に少子高齢化により人口減少が進む中で休・廃校施設が増加しています。この有効利活用が全国的な課題となっており、その取り組みの先進地として美馬市へ寄せて頂きました。美馬市は、平成17年に3町1村が合併して誕生しました。平成25年には小学校が37校有りましたが29校が休・廃校となる見込みの当初計画の中で、その利活用が進められ、平成25年度から平成28年度までの4年間をかけて説明会や住民アンケートを行い、学校統合後の廃校跡地利用について検討されて来ました。現在、5校の跡施設が有効活用されている様です。その中でも注目したのは、徳島大学発のベンチャー企業で食用コオロギの開発・販売をおこなっている株式会社グリラスです。グリラスは、廃校となった小学校を美馬市から2020年に借り受けて食用コオロギの生産拠点として整備・運営されています。メディアでも数多く取上げられており、ご存知の方も多いと思います。昨年には災害時応援協定を締結し、災害発生を想定した炊き出しを行い、コオロギカレーが振舞われ好評であったとの説明を美</p>	<p>高知県高知市では、市民協働について「こうちこどもファンド」の研修をおこないました。</p> <p>先ず市の説明では、「こうちこどもファンド」とは、未来の高知市を担う子どもたちの『自分たちのまちを良くしたい』という想いを実現するために、「高知市子どもまちづくり基金」を積み立て、その基金を原資として、子どもたちの自発的な活動を支援するという制度であります。この制度は、子どもたちの提案を補助対象とするだけでなく、審査する側にも子どもたちが参加するという全国の自治体に先駆けた取り組みであるとの事です。この制度は、平成24年4月より開始されました。「こうちこどもファンド」が目指すものは、①将来のまちづくりを支える人材育成、②「子ども」を中心としたまちづくりの活性化、③子どもに優しいまち(高知市)の実現とされています。多くの地元企業が趣旨に賛同され寄付が行われているとの事です。助成金の上限は20万円で、どの団体に助成するかは、書類審査と審査会を経て決定される様です。花の苗植え、ゴミ拾い、落書き消し等の美化活動や避難訓練、避難地図・看板作成費の防災を初め、食・交流等様々な活動実績も聞かせて頂きました。子どもたちのアイデア</p>

馬市の担当者から受けました。またコオロギパンの缶詰も災害時の非常食として備蓄されました。

本市でも産官学連携による地域活性化に向けて、より一層の研究調査を行い廃校跡地利用の有効活用の推進に努めなければならぬと感じました。

で子どもたちが主体となったまちづくり活動であればジャンルを問わずに活動出来るようです。制度開始から10年が経過し、多くの成果を上げていると伺いました。

本市でも「市長と語ろう私たちのまちづくり」と題して子どもたちの意見を聞く等の取り組みは行っていますが、子どもたちの思いや願いを具体化するには、高知市のこどもファンドのような制度が必要であると感じました。